

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍病態制御学（がん専門基礎研究コース（正規課程））						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬のみならず、T cell engagerや腫瘍電場療法を含むがん薬物療法の基礎研究やトランスレーショナルリサーチに精通した人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得する。基礎研究を行うためにベースとなるがん治療の基盤的、横断的な学習を行い、その後バックグラウンドを生かした基礎研究に従事する。4年修了時にはがん研究関連（臨床研究、がんゲノムや腫瘍免疫も含む基礎研究、トランスレーショナルリサーチ）の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（6単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（6単位）、分子腫瘍学（4単位）、がん薬物治療学（4単位）、薬理遺伝学（4単位）、がんトランスレーショナルリサーチ演習（4単位）</p> <p><選択科目></p> <p>がんゲノム研究演習（4単位）、腫瘍免疫基礎研究演習（4単位）、腫瘍内科学基礎研究実習（6単位）、腫瘍内科学特論（2単位）、腫瘍関連機器研究演習（4単位） 模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（SP演習）（1単位）、地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（CS演習）（1単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	なし						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	腫瘍に係わる基礎研究者として求められる専門的知識、技能の習得に対してゲノム生物学教室や免疫学教室と共同して対応可能である。						
指導体制	近畿大学医学部腫瘍内科は臨床で得られたクリニカルクエスチョンを機動的に基礎研究で検証する研究成果を挙げてきた。過去のがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する腫瘍内科医により、大学院生それぞれのニーズに合わせた教育が可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	がんに係わる基礎研究をマネジメントできる技能を習得し、がんセンターや大学病院にて基礎研究や教育指導に従事することで、後進の基礎研究者を輩出する。						
受入開始時期	令和8年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	0	1	0	1	2
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	腫瘍病態制御学（がん専門基礎研究コース（正規課程））におけるニーズを元に算出した。						